

2020年10月8日（木）に開催された第3回理事会(定例)の概要をお知らせします。

<報告事項等>

□当協会の理事である参議院議員の朝日健太郎氏は、令和2年9月16日に発足した菅内閣の国土交通大臣政務官に就任された。

大臣政務官は、「国务大臣、副大臣及び大臣政務官規範」により公益法人の役職を兼務してはならないことになっており、9月18日付で辞表が提出された。

□本年8月19日に定時評議員会が開催され、菊地幸夫氏が監事に選任された。今回の理事会は菊池氏にとって初めての理事会参加となるため、自己紹介が行われた。

□山本章雄評議員会議長より下記趣旨により、理事会・評議員会共同の新たなワーキングチームを立ち上げることについての提案があり、理事会はこれを承認した。

【趣旨】

- ・日本バレーボール協会は、2011年に他競技団体に先駆けて公益法人に移行し、それから10年が経過しようとしている。一方、2015年にスポーツ庁が設立され、2019年にはガバナンスコードが制定された。これにより、中央競技団体は年に一度ガバナンスコードの遵守状況を開示しなくてはならず、定期的に統括団体による適性検査を受ける義務が課せられている。
- ・ワーキングチームの具体的な活動としては、スポーツ庁のガバナンスコードの精神に則り、JVAの定款やガバナンスの状況を比較検証し、必要であれば修正をかけていくことで、より良い運営を目指すことが目的である。これは実際に職務を執行する理事会とそれを監督する評議員会が両輪となって進めていくのが効果効率的である為、現在の評議員会内にあるワーキングチームを発展解消させ、理事会と評議員会の両会から構成される新たなワーキングチームを立ち上げることを提案する。

<決議事項>

●コンプライアンス違反に対する処分について

対象チーム	対象行為者	資格	違反行為	コンプライアンス委員会
広島県高等学校バレーボール部	監督	コーチ1	不適切な指導	資格停止 12ヶ月

※なお、日本スポーツ協会（JSP0）公認スポーツ指導員資格に関する処分は、JVA理事会の決議結果を受けたうえで、JSP0が最終の決定をするため、JVAの理事会決議とは異なる処分となる場合があります。

<報告事項>

●2020年度第2四半期職務執行報告

【嶋岡会長】

- ① ドクターとのコロナ対策・PCR検査についての打合せ
- ② 自民党スポーツ立国調査会へ外国籍選手入国依頼
- ③ 日本代表リモートマッチ紅白戦視察
- ④ 組織委員会との打合せ
- ⑤ テレビ局との今後の国際試合についての打合せ
- ⑥ 業務執行理事会・管理職会議参加

【鍛冶業務執行理事／事務局長】

- ① 業務執行理事会参加
- ② Vリーグ理事会参加
- ③ 排球堂（株）取締役会参加
- ④ 内閣官房主催オリンピック・パラリンピック会議参加
- ⑤ コンプライアンス委員会参加

【鳥羽業務執行理事／HP事業本部長】

- ① 2021テストイベント開催調整・検討
- ② 日本代表リモートマッチ事前調整
- ③ 日本スポーツ協会理事会参加
- ④ AVC主催大会（アンダーカテゴリー）対応
- ⑤ 強化戦略プラン最終稿チェック

【高野業務執行理事／業務推進室長／指導普及事業本部長】

- ① 日本オリンピック委員会環境部会参加
- ② 日本オリンピック委員会定時評議員会参加
- ③ ガバナンスコード適合性審査説明会参加
- ④ 監事会・監査法人報告会開催
- ⑤ 三好総合法律事務所訪問

【村上業務執行理事／大会運営事業本部長】

- ① 東京体育館視察
- ② Vリーグ機構役員選考委員会参加
- ③ 春高バレー準備委員会参加
- ④ 日本代表リモートマッチ開催
- ⑤ 天皇杯・皇后杯実行委員会開催協議

【紀伊ビーチバレーボール事業本部長】

- ① JVA/JBV連絡会開催
- ② エムエスティ保険との打合せ
- ③ ビーチ強化委員会幹部との打合せ
- ④ 三重県、津市国体関係者会議参加
- ⑤ ビーチ選手向けWEBルール講習会開催

●功労者Ⅱ表彰報告について

功労者Ⅱ表彰について下記の通り報告があった。

○第11期（2020年度）第2回功労者Ⅱ表彰者

- ・久保田安政 群馬県バレーボール協会 参与
- ・深尾敏夫 岐阜県バレーボール協会 副理事長

●2021 アジア選手権について

2021年のアジア選手権の大会日程について報告があり、東京五輪終了日から大会開催までの間隔が非常に短いことから、アジア選手権までは、男女日本代表監督も含め現行強化体制を継続することについて説明があった。

●中期収支予測について

2018年10月に承認された中期経営計画は、2018～2024年の期間を対象としていた。

その中で、当時より東京五輪以降は協賛金や補助金の大幅な減額が予想されており、2021年以降の経営は非常に厳しくなり、それに向けて収支構造の改善や、大幅なコスト削減が求められる内容となっていた。

計画では、2018・2019年度は、この2年間だけでもトータル10億円の赤字を予測していたが、結果的には経費削減や増収策が功を奏し、収支均衡で収まった。

しかし2021年以降のJVAを取り巻く厳しい環境は当初と変わることはなく、さらに今回の新型コロナウイルスの感染拡大による影響も重なり、厳しさを増す状況となっている。

8月3日の理事会で2019年度の決算と2020年度の補正予算の理事会承認を受けた。このことにより、ある程度は足元の状況が固まってきたため、2021～2024年度の中期経営計画の修正作業に入った。中期経営計画修正の承認までにはもう少し時間がかかるが、具体的な解決策をJVA一丸となって計画し、新たな中期経営計画の策定を進めたい。

●国内大会実施について

[天皇杯・皇后杯全日本選手権]

都道府県・ブロックラウンドは中止となったが、最後のファイナルラウンドのみ開催準備を進めている。

12月11～13日 武蔵の森総合スポーツプラザ → 無観客試合

12月19、20日 大田区総合体育館 → 男女決勝入れ替え制

[春の高校バレー 全日本高等学校選手権大会]

2021年1月5日～10日 → 無観客試合

以上